

千葉商科大学と市川市との連携等に関する包括協定書に基づく分野別事業報告書(平成22年度)

分野	ICT	文化・国際	スポーツ振興	環境	まちづくり・産業振興	災害
計画事業1	市川市と千葉商科大学がそれぞれ運営するWebサイトの相互リンクにより、双方で情報発信を行う。	大学を会場としていちかわ市民アカデミー講座を開講(講師:大学教員)	<施設相互活用事業> 体育祭～CUCオリンピック～千葉商科大学学生を対象に年に1回体育祭を行う際、市川市施設を利用し開催。	「環境マネジメント演習Ⅰ」に市職員が講師として参加する	消費者動向調査の実施	市川市、市川消防署の協力を得て、大学が「リスクマネジメント論」の講座を開く。学生以外の一般の方も聴講可能
計画事業2	市川市が実施するICT関連事業(人材育成や地域向けの施策・インターネット放送用番組制作など)について、千葉商科大学の参画方法に関し検討する。	市史編纂事業への大学教員の協力する。	<施設相互活用事業> 千葉商科大学野球部(硬式、軟式、女子軟式)対象に国府台野球場を、週に2時間程度の時間を設け、優先利用を希望。	「地域環境社会論Ⅰ・Ⅱ」に市民が聴講可能とする。	「起業スクール」の開講	市川市、市川消防署の協力を得て、大規模災害を想定した避難訓練を行う。学生、教職員を対象とする。
計画事業3	市川市と千葉商科大学の放送・映像関係諸設備の相互利用を開始する。千葉商科大学が所有する映像制作・放映に係る施設、設備等について、市川市がインターネット放送の番組を制作する際に使用を認める。また市川市が所有する映像制作・放映に係る施設、設備等について、千葉商科大学が授業や公開講座、映像制作等を行う際に使用を認める。	市主催の審議会等に大学教員を派遣する。	<施設相互活用事業> アクアスロン大会など、市川市開催事業を大学の体育施設及び教室を利用し開催する。	市川市環境行政に学生が参画する。	「中小企業マネジメントスクール」の開講	本学内において、独自の(学生)ボランティアシステムの推進を検討する。
計画事業4	市川市の持つ地元歴史の紹介番組などの映像資料を素材として、千葉商科大学で専門的な解説あるいはガイドナンス映像を加えて再編集することにより、新たな映像コンテンツとして制作し公開する。	図書館相互利用	<施設相互活用事業> 千葉商科大学の施設利用についての調査を行う。	「環境フィールドワーク」を市川自然博物館で実施する。	「元気！市川会」と協力し、目標とする「エリアマネジメント」の具体化を進める。	大学を避難場所として提供
計画事業5	市川市がインターネット放送で実施する外国語教育番組の制作に、千葉商科大学が協力する。大学で開講中の授業を利用する形も含めて検討する。	1号館展示場の市埋蔵文化財等の展示協力	<スポーツ交流事業> 市川市開催事業に学生を派遣し、相互活用を希望。	全国高校生環境スピーチコンテストを開催する。	市川市e-モニターでの社会情勢調査	市の防災資材の保管協力
計画事業6	大規模災害等で市のインターネット設備に障害が発生した際の、大学の施設・設備の代替利用について調査する。				大学教員が市の主催する審議会や委員会に参加することで、市川市の政策に貢献する。	大学の井戸水を災害時に市民に提供する。
計画事業7	市川市が市民に対して被災状況や支援要望の聞き取り調査・集計を行う際に、質問紙調査システムSQSを用いて支援する。				従来からのボランティア型宅配サービス、キッズビジネスタウンなどの地域連携活動を継続、発展させていく。	
計画事業8	政策情報学部創立10周年記念として、「インターネットの安心・安全対策」をテーマに、市川市の後援を得てシンポジウムを行う。				大学と市川市のボランティア協会などの関係団体と協議を進め、学生が参加する新たなボランティア活動の推進をはかる。	
計画事業9					大学の修士課程に本年度、中小企業診断士養成コースが開設されたことにより、低迷する中小企業運営への経営相談など、市川市の地域経済団体(商工会議所等)と中小企業診断士養成コースなど産業振興について連携・協議する。	
計画事業10					市川市、千葉商科大学、商店会などが連携して、中山地区などの商店街活性化策を検討し、実施する。	